

銀行の資金の過不足と日本銀行当座預金

オールド・ノーマルの金融調節①

金融調査部 研究員 中村文香

日本銀行の金融調節は、金融危機を経るごとに変化してきました。現在の金融調節を理解するためには、伝統的金融政策と呼ばれる時代の金融調節を学ぶことが重要です。そこで、「これでなっとく金融調節」第2回は「オールド・ノーマル」の金融調節のうち、銀行の資金の過不足と日本銀行当座預金について解説します。

銀行だけが使える「お金」を創り出す魔法

第1回でお話ししたように、金融機関は、お金が余っている人と、お金を借りたい人を結びつける仕事をしています。私達にとって最も身近な金融機関である銀行は、預金を受け入れることでお金を集め、そのお金を貸出や、債券などの有価証券の運用に回しているというイメージがあるかもしれませんが、これは正確ではありません。銀行は金融機関の中で唯一、お金がなくてもお金を貸せる存在なのです。

具体的に考えてみましょう。私が銀行から100万円を借りるとします。すると、銀行は私の預金口座の残高の数字を+100万円に書き換えます。なんと、これでおしまいです。銀行は、私に貸すための100万円をどこから借りてくる必要もないし、もともと誰かから預金として受け入れている必要ありません。私はどこからともなく現れた100万円を自由に使うことができます。なにもないところにお金を生み出す魔法を「信用創造」といいます。生み出されたお金は世の中でやり取りされるお金の量を押し上げます。理論上、銀行は無限にお金を生み出すことができます。

すべてのお金は金融機関の間で流れる

次に、借りたお金を使う段階について考えてみましょう。ここまで「お金」と書いてきましたが、正確にいうと、銀行が創り出せるのは「預金」です。貸出したお金のほとんどが、預金の形のまま銀行間を移転し、支払いなどに使われます。先ほど私が借りた100万円をなんらかの支払いに充てる場合も、振込をしたり、支払われた人が預金として銀行に預け入れたりすれば、お金がA銀行からB銀行に移っただけで、金融機関全体でみたお金の量は変化しません。

金融機関同士のお金のやり取りにはいくつか方法がありますが、そのうちの 하나가日本銀行にある金融機関の口座を通じたやり取りです。この口座を日本銀行当座預金（日銀当預）といいます。日銀当預に預け入れられているお金の総量が、金融機関相互の支払いに利用できるお金の総量だといえます。

日銀当預が増えたり減ったりする主な要因として、現金の需要と、国との資金のやり取りがあります。例えば、ゴールデンウィークなどの大型連休前には、現金を多めに引き出して手元に置く人が増えます。金融機関は ATM や窓口の現金を補填するため、日銀当預を取り崩して対応するので、日銀当預の残高が減ります。また、国に納税をする場合も日銀当預残高が減る要因になります。一方、国から年金が支払われるとお金が余る要因になります。日本銀行は、これらのイベントを把握し、金融機関に必要なになりそうな金額を事前にヒアリングして、金融機関全体に必要な金額を予想します。そしてお金の過不足を見極め、金融機関に対してお金を貸したり、資産を売買したりする金融調節を行い、金融機関同士でのお金のやり取りを円滑に保っています。

個別の金融機関の資金繰りも重要

日銀当預の総量が十分でも、個別の金融機関ではお金の過不足が起きます。金融機関が日銀当預に預けているお金の使い道は、主に他の金融機関などに向けた支払いです。日銀当預にお金を入れておくと利息が付かないため¹、金融機関は、その日支払いに必要となる金額を予想して、必要最低限の額を日銀当預に預け、残りは運用します。しかし、予想が外れ、お金が足りなくなったり、余ったり、ということがよくあります。お金が足りなくなってしまうたり、余ってしまったときに利用されるのが、金融機関同士でお金を融通する「短期金融市場」です。短期金融市場では、今日借りて、明日返すといったような、短期間のお金のやり取りが行われます。お金が足りない金融機関は、必要なお金が確保できないと、最悪の場合、破綻してしまうため、お金が余っている金融機関から借りの必要があります。短期金融市場を通じて、個々の金融機関のお金の過不足が均されます。

ただ、借りたい人が多いのに、貸したい人が少ないなど、市場が十分に機能しないこともあります。最悪の場合、必要なお金を確保できず破綻する金融機関が出てしまい、その金融機関の支払いを当てにしていた他の金融機関にも影響が出るなど、金融機関のネットワーク全体に動揺が広がる恐れがあります。こうした状況を引き起こさないために、日本銀行は、個別の金融機関の資金繰りにも注意し、必要に応じて金融調節を行います。

第3回は、日銀当預を通じたもう一つの金融調節の手段である「準備預金制度」について解説します。

以上

¹ 現在は日銀当預にも付利が行われています。詳しくは別の回で説明します。